

なし管理情報 No.3

令和5年4月7日
下野方梨組合
魚津市農業協同組合
富山県新川農林振興センター



1. 開花状況

- すべての品種で開花が大幅に早まっている。
- 「豊水」の開花始めは4月1日で前年、平年に比べ9日早く、満開は4月6日で前年、平年に比べ6日早かった。
- 「幸水」の開花始めは4月6日で、前年、平年に比べ6～7日早かった。

開花状況（下野方）

年次	豊水		幸水	
	開花始	満開	開花始	満開
R5年	4/1	4/6	4/6	まもなく
R4年	4/10	4/12	4/12	4/14
R3年	4/1	4/3	4/4	4/12
平年	4/10	4/12	4/13	4/16

2 病害虫防除

<ポイント>

- （薬剤散布）今年、4月6日からの降雨で3回目の防除時期が園地によって異なっている。今後の散布は、散布間隔10日を目途に、散布間隔がひらきすぎないように実施し、薬剤のかかりにくい園地周囲を中心に補正散布を実施する。
- （黒星病対策）呉羽地区の黒星病のモニタリングを行っている園地では、3月20日から黒星病の子の胞子の飛散が始まっている。芽基部病斑及び葉、葉柄、幼果等に発生した春型病斑は、見つけ次第、摘み取って園外で処分する（病斑は、次ページの写真参照）。
- （ナシヒメシンクイ対策）ナシヒメシンクイの初発が平年より早い3月第5半旬から確認されたことから、コンフューザーNを4月上旬中旬に設置する（参考資料参照）。

1) 薬剤防除

回数	散布時期の目安※1	散布薬剤と希釈倍率	散布量	対象病害虫	実施日（自己記入）
	4/9～11頃	コンフューザーN 150本/10アール		リンゴコカクモンハマキ モモシンクイガ、ナシヒメシンクイ	
4	4/15～17頃 (受粉後)	デランフロアブル 1,000倍	300 l	黒星病、赤星病、心腐れ症 黒斑病	
※2 5	4/24～26頃 (小豆大)	スコア顆粒水和剤 1,000倍 トレノックスフロアブル 500倍 サイアノックス水和剤 1,000倍	350 l	黒星病、赤星病 黒斑病、心腐れ症 ハマキムシ類 アブラムシ類 シンクイムシ類、クワコナカイガラムシ	
6	5/3～4頃 (大豆大)	ユニックス顆粒水和剤47 2,000倍 アクタラ顆粒水溶剤 3,000倍	350 l	黒星病、黒斑病 アブラムシ類 チュウゴクナシキジラミ	

※1 散布時期の目安は、3回目の防除を4月5日とした場合。

※2 前年、心腐れ症の発生が多かった園地では、5月下旬までにトップジンM水和剤（1,500倍、収穫前日まで 6回以内）を特別散布する。

(参考) 黒星病の芽基部病斑と春型病斑



黒星病芽基部病斑
(りん片が脱落しない)



葉柄に発生した
春型病斑

3 今後の管理

<ポイント>

- ・「幸水」は、4/5頃から開花が始まっているが、園地によって開花がばらついている。結実を確保するため、今後の天気予報に注意し、適期を逃さず人工授粉を実施する。
- ・開花期間中に低温に遭遇した場合は、残った花に人工受粉を行い結実の確保に努める。
- ・摘蕾ができなかった場合は、受粉後に摘花、摘果を行い、貯蔵養分の消耗を極力抑える。
- ・①主枝、②亜主枝の先端、③予備枝、④長果枝の先端、④小花、⑤短果枝の「無着葉花そう」と「花台が細い弱小花芽」は、全て摘花、摘果する。
- ・なしは、開花期から幼果期にかけて凍霜害に対する耐性が最も低くなる。今年のように開花が早い年は、必要に応じてGW頃まで凍霜害対策を実施する（詳細は前号を参照）。

4 農作業安全～いのちを守る作業安全は全てに優先する～

- ・開花期の大幅な前進に伴い、短期間に多くの作業が重なっている。農作業事故防止のための自園地の危険な場所の把握等、基本的な対策を再度確認し、徹底する。
- ・十分な睡眠をとり、作業前に準備運動を行うことや、作業中は適度に休憩をとることなど、体調管理に留意する。
- ・SSや乗用草刈機、刈払機の整備、点検やトラブルが発生した場合は、必ずエンジンを停止して実施する。
- ・脚立は、チェーンをかけて使用し、最上段には上がらないようにする。

<お知らせ①>

- ・今年も黒星病の全園地調査を行います。実施予定時期は、5月上旬、5月中旬、6月中旬、7月中旬、収穫直前、収穫中、10月中旬を予定しています。調査へのご協力をお願いいたします。

<お知らせ②>

- ・次号は、5月2日頃の発行を予定しています。

<問い合わせ先>JAうおづ 営農課 吉崎 24-9923